

『元気なおびひろ』

- 「フードバレーとかち」構想の推進 8,816千円
 - ・「産業連携室」を部として設置
 - ・構想推進事務費
- 中国・東アジアへの展開 7,218千円
 - ・成長著しい中国市場をターゲットとした販路開拓事業の実施
 - ・中国人観光客の北海道、十勝、帯広への誘致を図るためのプロモーション事業の実施
- 3大都市圏への展開 6,300千円
 - ・首都圏及び中京圏で販路拡大事業の実施
 - ・首都圏、中京圏、関西圏との人的・物的交流の促進を図るため、とかち帯広空港利用促進キャンペーン等を実施
- 「ベーカリーキャンプ2010」の開催 2,000千円
 - ・十勝産小麦をテーマとした「ベーカリーキャンプ」の開催
- 口蹄疫対策 1,750千円
 - ・口蹄疫等家畜伝染病に対する予防の強化及び防疫資材の備蓄

- 農業生産基盤・施設整備 1,192,969千円
 - ・地域の基幹作物である小麦の生産量拡大、品質向上のため、穀類等乾燥調製貯蔵施設等の整備を支援
 - ・これからの中核的な担い手としての農業後継者、新規就農者の農業機械導入に対する支援
 - ・道営畑地帯総合整備事業により、大正南地区での基盤整備を実施
- 地域経済活性化対策 814,201千円
 - ・持ち直しつつある地域経済の本格的回復に向け、生活基盤整備及び公共施設の省エネ化改修等の公共事業を追加
 - ・中小企業の資金調達円滑化を図るため、セーフティネット資金及び保証料補給金を追加
- 雇用対策 143,190千円
 - ・離職を余儀なくされた失業者等の一時的な雇用・就業機会を創出（雇用者数40人、うち失業者 37人）
 - ・地域の実情や創意工夫に基づく地域求職者等の雇用機会を創出（雇用者数10人、うち新規雇用10人）

『人にやさしいおびひろ』

- 学校の耐震化 80,800千円
 - ・栄小学校体育館改築実施設計
 - ・耐震化を要する校舎の耐震補強実施設計（改築予定等を除く16校）
- 災害時要援護者の避難支援計画作成 5,393千円
 - ・要援護者の把握・登録及びモデル2地区での避難支援個別計画の作成
- 中等度難聴児への補聴器購入費助成 352千円
 - ・言語習得に大きく影響を与える幼児期に、言語訓練及び集団等での生活訓練の促進を図るため、補聴器購入費の一部を助成
- 依田保育所1・2歳児受入枠の拡充 1,961千円
 - ・低年齢児の入所定員の増（1歳児 5名増、2歳児 3名増）
- 母子家庭等就業・自立支援センターの設置 1,466千円
 - ・北海道と連携し、母子家庭の母親等の自立に向けた就業・生活支援を実施

『人輝くおびひろ』

- 朝陽市友好都市締結10周年記念事業 7,500千円
 - ・交流の発展に向け、未来のまちづくりを担う若い世代を交えた、親善訪問団の相互派遣
- 放課後こども教室の拡充 720千円
 - ・新規 2校
 - ・安全管理員の増員
- アイヌ民族の理解促進 1,500千円
 - ・生活館で「アイヌ生活文化展」を開催
 - ・各公共施設でアイヌ民具等の移動展を開催
- 社会教育施設連携アクションプログラム 1,500千円
 - ・図書館、百年記念館、動物園、児童会館が連携し、「未来へつなぐ ふるさと おびひろ」をテーマとした展示・イベント等を開催
- 新たな学校給食調理場の基本構想策定 740千円

『環境都市おびひろ』

- 環境基金の創設 11,177千円
 - ・市民・民間企業の省エネ化等による効果額を原資とした寄附金や、公共施設等の省エネ効果額などを積み立て、市民・民間企業等の創エネ・省エネ化に向けた取り組みへの支援に活用し、更にその資金が拡大し循環する仕組みの契機として基金を創設
- 新エネルギー導入促進事業の拡充 6,970千円
 - ・補助対象機器にエコジョーズ、エコキュートを追加し、一般家庭における省エネ化、CO2排出量削減を促進
- 防犯灯の省エネルギー化促進 8,000千円
 - ・町内会設置防犯灯の省エネルギー型照明灯による整備及び更新を支援
- 太陽光発電システム整備 4,500千円
 - ・森の交流館・十勝、稲田浄水場への太陽光発電システムの導入に向けた実施設計
- 公共施設の省エネ化改修（地域経済活性化対策（再掲）） 109,304千円
 - ・民間への普及モデルとなるような既存公共施設での省エネルギー化改修の実施

『未来に続くおびひろ』

- 市民対話推進事業 480千円
- 総合計画推進事業 560千円
- 議会中継システムの導入 3,696千円

平成22年度 6月補正予算

総額 3,083,511 千円

<主要な事業を記載>